

特別企画・2号連続掲載

# 養正館流

# きょうだい別育成法

## 前編(2人きょうだい)



養正館館長  
渡辺貴斗

きょうだい(兄・姉・弟・妹)には、2人きょうだい、3人きょうだい、1人っ子の3つの代表的な組み合わせがあります(双子はここでは省略します)。子育てで最も多い悩み事は、「きょうだいに関する問題」という報告もあるくらいに、子育てにおける最重要項目のひとつとなっています。長子(上の子)はこんな子になりやすい、末子(下の子)の性格は、などといった「血液型性格判断のようなステレオタイプな特徴」は存在しないとする研究者もいますが、明らかに有意差があると主張する教育者、心理学者もいます。私なりの結論を申しますと、それら特徴は全員には当てはまらないのは当然ですが(必ず例外は存在しますので)、数千人の道場生を見てきて、きょうだい別の特徴みたいなものが確かに存在する、と確信しています。特徴があるということは、長子向けの対処法、末子向けの指導法などを講じることができるはずだと考えます。

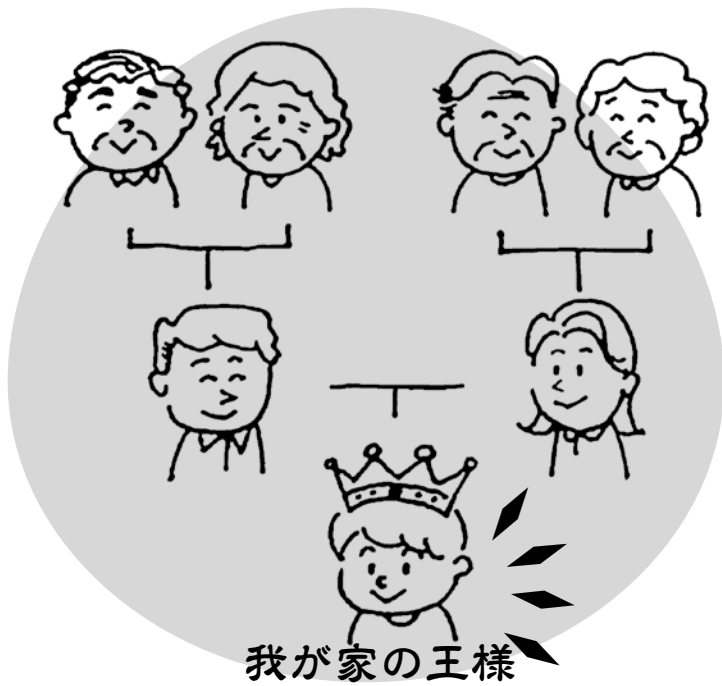


まずは2人きょうだいについて考えてみたいと思います。私には大学1年の息子と高校2年の娘がいますが、赤ちゃん期、幼少期、小学生期、中学生期、高校生期と、2人きょうだいの特徴を、子育てを通して見てきました。同時に、道場で多くの2人きょうだいを見てきましたが、それら知見(ちけん)を踏まえ、2人きょうだいの特徴を以下にまとめてみました。これらはあくまでも、私の主観に基づくもので、必ずこのように型にはまるというわけではありません。

### 〈初めての子育て〉

まず、上の子(長子)について考えてみます。1人目が生まれると、その子は両親の注目を一身に集めることになります。それどころか、両親のそれぞれの両親、つまり、おじいちゃんとおばあちゃんも含めると、全部で6人の大人から注目を集めます。真っ暗なステージ上で、スポットライトを浴びている感じです。王様(女王様)的な扱いを受け、何でも与えてもらえ、万能の神状態です。

しかしながら、成長するにつれ、長子として期待されることも増え、それがだんだんと重荷になって



いきます。例えば、男の子であれば、父方の祖父母が跡取りとして期待することもあるでしょう。本人だけでなく、お母さんもプレッシャーで押し潰されそうになります。

初めての子で、お母さんは不安でいっぱいです。育児書を買込み、先輩ママに頻繁に相談します。食事は親子で別々に作り、アレルギーや食中毒に配慮した離乳食を毎回準備します。お風呂に入るときは、育児書に書いてあるように必ず温度を測り、専用バスチェア、バスタブ、お風呂グッズを揃えます。哺乳瓶には、専用消毒液・乾燥容器を購入し、漂白剤殺菌・高温乾燥を施し、毎回しっかり除菌します。洗濯物に関しては、赤ちゃん用の洗剤を購入し、家族とは別々に洗濯します。

旦那さんは「そこまでやる必要あるの?」と不満を漏らしますが、そこは絶対に譲れません。「抵抗力の弱い赤ちゃんなのに、病気でもしたらどうするの?! 文句言っている暇があったら、お風呂入れるの手伝ってよ!」と、旦那の無神経さにイライラします。

### 〈上の子の特徴〉

お母さんは、子育てを絶対に失敗したくありません。でも子育ては未知の世界ですので不安でいっぱいです。ママ友の子どもさんのようにいい子に育てほしい、育児書で読んだ理想の育児法を私も試してみたい、と意気込んでいますが、現実には理想通りにそううまくはいきません。不甲斐ない我が子に

ろいろ口出しし、つい怒鳴ってしまい、ときには手が出ます。先回りして、困らないように、失敗しないようにと、いつもそのことで頭がいっぱいです。このようなやり方を続けていくと、どんな子に育っていくのでしょうか?

それは、常にお母さんの顔色を見て、叱られないように、先回りしてトラブル回避するような子、つまりお母さんにとって良い子でいようと思います。

学校から帰ってくると、まずお母さんを探します。お母さんの顔色、機嫌の確認が最優先されます。自分の好きなことではなく、お母さんの喜びそうなことを選んでやります。

「お手伝いすることない?」

と自分から申し出ること、お母さんの雷を事前に回避します。

「お姉ちゃん(お兄ちゃん)なんだから」

と言われるので、お母さんに甘えたくても我慢します。人の顔色を見る癖があるので、周りの人への気配りがいやでも上手になります。他人の迷惑にならないかと、いつも周りを気にしています。お母さんに叱られるので、余計なことはやりません。

言われたことしかやらないので消極的な性格と言われます。言い換えると指示待ち人間です。親の期待を裏切らないように頑張るので、真面目で責任感があります。中学生になる頃には、親の意向に沿った進路を選ぶようになるでしょう。

このように、やりたいこと、欲しいものがあったても口に出さずに我慢するのが、長子の特徴です。

試合でも、「絶対オレが勝つんだ!」といった闘争心、競争心も希薄な印象です。負けてもさほど悔しがらず、初めから結果を知っていたかのように冷静です。自分の身の丈を知っていて、余計な高望みはしません。あまり期待すると負けたときのショックが大きいので、ある程度、自分で決めた枠内におさまって満足します。人を押しつけて「自分が自分」といった感じがなく、控えめな性格といえます。

広島大の杉浦義典准教授によると、下の子が生まれるまでは、上の子の周りの環境は大人だけなので、幼少のときから周囲の会話レベルが高くなり、それにとまって知能の発達も早くなるそうです。結果的に上の子は学力が高くなる傾向があり、これは1人っ子も同じです。

1人目ということで、お母さんからの注目度も

高く、“勉強を頑張らざるをえない”というプレッシャーも、長子の学力が高い原因として考えられるでしょう。

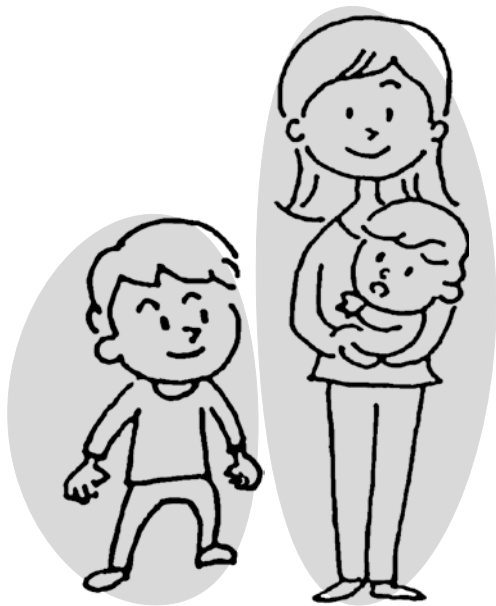
### 〈2人目が生まれた！〉

次に下の子です。2人目ということで、お母さんの肩の力が抜けています。つまり、手抜きの子育てとなります。姑からの期待も薄く、育児のプレッシャーもないので、ついつい甘やかしてしまいます。

〈まあいっか、死ぬわけじゃないし〉

と放任子育てとなります。上の子の時はあれほど神経質に殺菌した哺乳瓶も、今では適当にすすいで自然乾燥です。

〈かえって免疫がついていいかなあ〜♪〉と都合よく解釈します。下の子だけ別に離乳食を作るのは面倒なので、家族と同じ食事をペースト状にして手抜きをします。おむつ交換、食事、お風呂なども上の子に手伝ってもらって、〈なんか、下の子はラクだなあ〜♪〉なんて思います。



### 〈下の子の特徴〉

結果として、下の子はどんな子に育つでしょうか？

お母さんが肩の力が抜けてリラックスしているので、下の子はプレッシャーを感じず、結果として甘ん坊で自由にふるまいます。自分の好きなことしかやらない、イヤなことは「やりたくない!」とはっきり言います。お母さんに叱られても平気で言い返します。打たれ強いともいえます。例えば、「早く起きなさい!」と叱られても、「お母さんだつてこ

の前寝坊したくせに」と言い返します。長子は過去に厳しく躾けられた恐怖体験から、口答えなど絶対にできません。弟（妹）を見て、〈あいつ、お母さんに言い返したりしてスゴイなあ。でも、うらやましい〉なんて思ったりします。

下の子は、「お手伝いすることある?」など間違っても自分から言って来ませんし、お手伝いを頼まれても「うん」と返事するだけで、いつまでたってもやりません。気づいたら、自分の部屋に逃げてしまいます。しばらくするとケロっとして部屋から出てきて、「ねえねえ、お母さん〜、お願いがあるんだけど」と甘えるのが上手です。このようにとても要領が良いのが、下の子の特徴です。世渡り上手、コミュニケーション能力が高い、自由人といった感じでしょうか。

### 〈まるちゃん・タケちゃん〉

イメージしやすいように、具体例をあげてみます。“ちびまる子ちゃん”のまるちゃんとお姉ちゃんが典型的です。真面目でお母さんからの信頼が厚いお姉ちゃん、イヤなことはイヤと言える自由人のまるちゃん、といった感じですね。まさに上の子、下の子の特徴を表していますね。

ビートたけし氏には、明治大学名誉教授の兄、<sup>まさる</sup>大氏がいますが、大氏は子どもの頃からド真面目な優等生でした。夜は早い時間から家の中を真っ暗にされてしまうので、外に出て街灯の灯りで参考書を読んで勉強しました。弟のたけし氏もイヤイヤ大学に進学しますが、ほとんど行かずに毎日ジャズ喫茶通い。お母さんにナイショで大学を辞めて、そのままお笑い芸人になってしまいます。この二人も、典型的な上の子と下の子の特徴を表していますね。

### 〈下の子は大成する?〉

下の子は、上の子の背中を見て育つので、空手の上達も上の子より明らかに速くなります。要領よく技術を身に付けていける、ともいえます。

もし上の子がすでに空手をやっていれば、下の子は始めたときから理想的な見本が周りにいる環境で、常に完成形をイメージしながら練習することができます。

体格も自分より勝る年長者、つまりお兄ちゃん、お姉ちゃんがいるので、揉まれて練習することで、体力向上、技術力向上が望めます。



上の子とのケンカを考えていただければ、分かりやすいですね。

私には4歳上の兄がいますが、小学生時代、ほぼ毎日ケンカをしていました。2人とも黒帯ですので、私は組手技術も使って、何とかして勝とうとします。兄も手加減なしで本気です。私が勝つのは、50回に1回くらいでしたが、このケンカを通して兄から技術を盗んだり、俊敏性を身に付けたように思います。きっと、兄は、年少者の未熟な私とケンカしても、それほどケンカ技術は向上しなかったと思います。

このように考えると、末子は、空手技術、体力、ケンカ技術（笑）の向上が望める理想的な環境にいることが分かります。また、上の子の“手加減なし”、というのも重要です。

これが1人っ子でしたらケンカ相手もいませんし、周りにいるのはお母さんかお父さんです。家族でかけっこや、ゲームをやるとき、いつも大人が勝ってしまうので、お父さん、お母さんは手加減してわざと負けてあげます。これでは、踏まれても踏まれても立ち上がる雑草魂、ハングリー精神は育ちませんね。

末子は打たれ強い、メンタルの強い子になる傾向にあります。上の子に追いつこうとする競争心が強く、わがままで甘えん坊なので負けることが許されず、負けず嫌いとなります。

### 〈お母さんは最初からベテラン〉

お母さんも、上の子のときのノウハウがあるので、下の子のときは試行錯誤することなく、最短時間で最小努力で、金メダルをとらせることができます。できるだけ早い時期、つまり道場が受け入れてくれる最年少の年齢（4歳など）になったと同時に、道場に入門させます。

「お兄ちゃんは小学3年で入門させたので、下の子はできるだけ早く始めたいです」とおっしゃったお母さんがいらっしゃいました。下の子のときは絶対に失敗したくない、というわけです。とはいえ、そのお母さん、下の子に期待しているというわけでもありません。これが不思議なのですが、依然として、お母さんの注目はお兄ちゃんに集まっています。何とかお兄ちゃんに勝たせてあげたい、というも思っています。

県大会で下の子が優勝、お兄ちゃんは2位で2人とも全少出場を決めました。そのとき、そのお母さ

んは、「下の子が優勝したのは特に何も感じませんが、お兄ちゃんが優勝じゃなかったのがものすごく悔しいです」とおっしゃっていました。下の子は、上の子のときのようなお母さんの期待も少ないので、プレッシャーを感じず、のびのび楽しんで練習に取り組みます。

下の子が生まれる前は、お母さんの注目や期待は、100%お兄ちゃんに向けられていました。お兄ちゃんは息が詰まりそうだったと思います。

下の子が生まれたので、お母さんの注目度は上の子と下の子で50%ずつに分散されると思いがちですが、不思議と、上の子が依然として80%の注目を浴び、下の子は20%以下といった感じです。

下の子が生まれても、お母さんの注目はずっと上の子に向けられているということです。

これが、下の子がのびのび空手に取り組める“カラクリ”となっております。

下の子は自分のために練習に取り組みますが、上の子はお母さんのために頑張っているのです、メンタル面で大きな違いが出てきます。

養正館には日本一をとった子が複数ありますが、例外なく、全員末っ子です。

### 〈2人きょうだいトラブルあるある〉

このような特徴を持つ2人きょうだいですが、上の子はかわいそうに思えてきます。そんな2人きょうだいには、どんなトラブルが起きやすいでしょうか？

これについては、次号、後編にて引き続き述べてまいります。

さらに、中間子（3人きょうだいの真ん中）、1人っ子の特徴についても考察していきますので、お楽しみに。

#### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から研修会副会長・渡辺貞雄（父）に師事。2001年父の町道場を継ぎ、2006年コーチングを導入した指導法に切り替えると、2010年に全少優勝者を早々に輩出。その後、2014年7名、2015年7名、2017年9名など、1道場からの全国最多入賞数を少なくとも8年連続で記録する。1道場に380名の道場生が在籍し、道場経営でも全国一を誇る。8年以上続いた連載「ZENSHOに行こう」で、空手キッズの指導にコーチング理論を導入し体系つけた空手界の第一人者。東京大学大学院博士号を持つ異色の指導者でもある。2024年1月号より、新連載「道場経営の成功法則」が再スタートする。



空手道場 養正館／静岡県沼津市本町 11-12